



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



ヤブラン：(大阪市内)

トピックス：森林技術・支援センターの取組の紹介について

ニュース：広島森林管理署、島根森林管理署、和歌山森林管理署

花草木：シコンノボタン

我が署のスタッフ：鳥取森林管理署

森林事務所等紹介：西山口森林事務所（山口森林管理事務所）

国有林最前線：広島森林管理署

森林技術・支援センターの取組の紹介について

【森林技術・支援センター】

森林技術・支援センターは、全国7箇所にある森林管理局に1箇所ずつ設置され、主に森林・林業に関する技術開発とその成果の民有林への普及業務を行っています。

近畿中国森林管理局の森林技術・支援センターは、岡山県新見市に所在し、これまでコンテナ苗植栽、早生樹（センダン、コウヨウザン）植栽、列状間伐、里山広葉樹資源の有効活用に関する実証試験など様々な技術の確立に取り組むとともに、それらの成果を情報発信して民有林への普及を行っています。

○技術開発に関する取組

全国の国有林では、現在、林業経営の効率化に向け、伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」の実現に向けた取組を行っています。

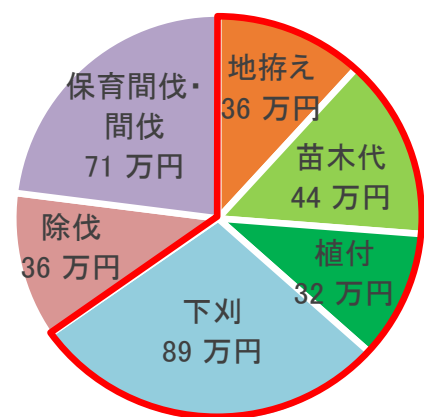
当センターにおいても、令和6年度から下刈り回数の削減等に関する新たな技術開発試験を開始しました。

戦後造成された人工林の多くが利用期を迎えており、今後は主伐・再造林の取組を積極的に進めていく必要があります。

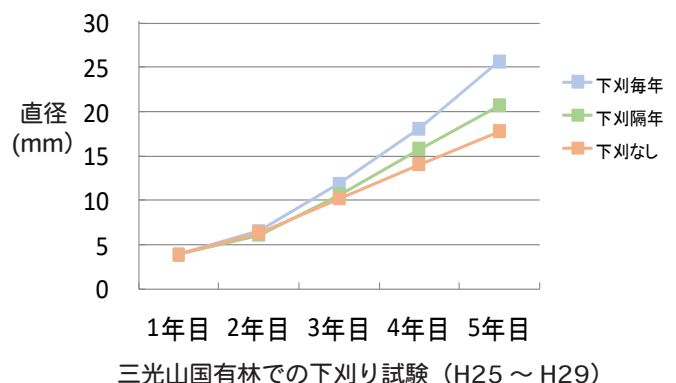
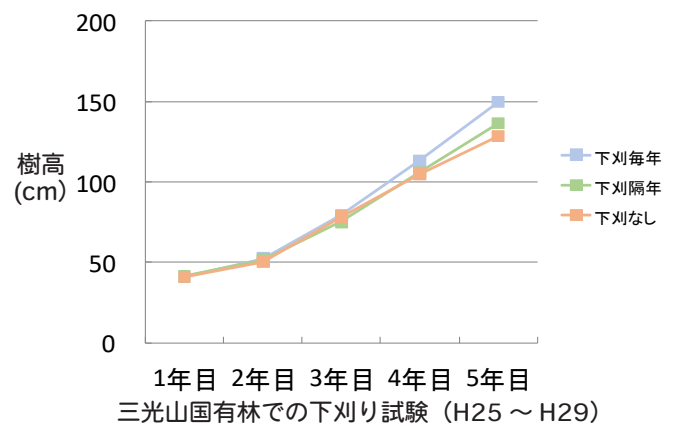
しかしながら、再造林に係る初期費用（地拵え、植栽、下刈り、苗木代）は、成林となるまでに必要とされる育林経費の半分以上の割合を占め、そのうち下刈りに要する費用が最も多くなっています。下刈りは、植栽木の成長を阻害する雑草木を刈り払う作業で、主に夏季に行います。その作業は、炎天下の傾斜地で行われる場合も多く、熱中症やスズメバチ等によるハチ刺されのリスクも高い非常に過酷なものであり、下刈り作業の省力化・軽労化を進め、費用や労働力の負担軽減を図ることが急務です。

このため、当センターでは、岡山県新見市の^{あかたき}赤瀧国有林において、ヒノキのコンテナ苗を植栽し、下刈りの回数や作業の時期の違いが植栽木の初期成長に与える影響等を調査するほか、^{さんこうやま}三光山国有林において通常植栽後5年程度毎年行う下刈りの回数を削減した場合における植栽木の成長等を調査しており、今回は場所を変えて下刈りを1回にまで削減した場合を含め成長を検証します。

また、過酷な夏場を避けて下刈り作業を行うことで



育林経費と再造林初期費用 (赤枠)
(森林・林業・木材産業の現状と課題 (林野庁) より)



従事者の負担軽減が図られることから、冬場の下刈りを行った場合の植栽木の成長への効果も検証することとしています。

更には、これらの下刈り回数や下刈り時期の違いについて、現在の標準的な植栽本数であるha当たり2,000本植栽の試験区に加え、再生林を低コスト化するためには植栽本数を少なくすることも有効なことから、ha当たり1,500本植栽の試験区を設けて調査を行います。

当センターでは、これらの調査結果を随時取りまとめて民有林関係者への情報発信を行い、「新しい林業」の実現に貢献していく考えです。



赤滝国有林での下刈り試験 (R6 ~) 試験区

○普及に関する取組み

これまでの技術開発で得られた成果を民有林の森林・林業関係者の方々に普及するため、当センターでは、「森林・林業技術視察プログラム (以下「プログラム」という。)」を作成し、現地視察を積極的に受け入れています。令和5年度は、このプログラムに基づき、現地視察や出張講座を計12回開催し、延べ150名を超える方々にご参加いただきました。また、この春から新たにプログラムを紹介する動画をホームページで公開しており、令和6年度も50名を超える方々にプログラムに参加していただいています。

当センターでは、今後も引き続き、民有林の森林・林業関係者の方々の技術的支援を積極的に行ってまいりますので、皆様のお越しをお待ちしています。

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/g_center/index.html



森林・林業技術視察プログラム (パンフレット)



森林・林業技術視察プログラム (動画)



地方自治体等による視察 (列状間伐箇所)

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/g_center/gisen_douga.html



NTTドコモ「環境学習会」で親子が楽しみました。

【広島森林管理署】

8月2日（金）、呉市二川まちづくりセンターにおいてNTTドコモ事務局主催による環境学習会が開催され当署も参加しました。この催しは、平成15年から開かれており、新型コロナウイルス感染拡大時期をのぞいて、今年で17回目となります。

今年は親子10組、計22名に参加いただき、当署からは、森林に関心を持ってもらうため、森林と水の役割について学ぶ紙芝居を行いました。

その後、木のブロックを水に浮かべて、重さの違いを確かめたり、木くずの香りをかいてもらって、心理的にどのような効果があるかを当てるクイズ、またトチノキ、ホオノキなどの葉っぱに触れて違いを感じてもらうなど、実物を使った体験学習をしました。

最後に行った木工教室では、木の枝やマツボックリ等の自然素材を使い、車やキーホルダー、動物などの作品を完成させて学習会は終了となりました。

広島森林管理署では、森林や木に触れる体験を通して、森林の楽しさや大切さを広く知っていただけるよう、今後も地域イベントの協力に取り組んでまいります。



葉っぱの標本を使ったクイズ



木材のブロックを使った実験



木工教室の様子

社会貢献の森で「夏休み子ども自然観察会」が開催されました。

【島根森林管理署】

8月3日（土）、連合島根と「社会貢献の森」として協定を結んでいる「連合の森」において、連合島根、森林労連島根分会、連合島根雲南地区会議による「夏休み子ども自然観察会」が開催され、多くの子どもたちが参加しました（参加者は、子供52人、保護者等総勢121名でした）。

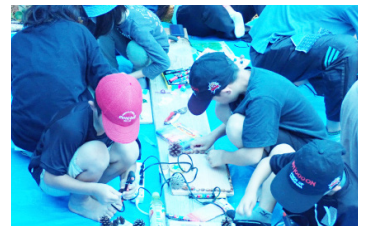
今年は、「紙芝居」「木工教室」「魚つかみ」を行い、当署は森林教室としての紙芝居と木工教室を担当しました。

参加者に怪我も無く無事に閉会式を迎えることができました。

このイベントを通して、子どもたちがたくさんのお木や自然に触れ、森林の魅力に興味を持っていただけたようで、私たちスタッフも大変嬉しかったです。島根森林管理署では、今後もこの活動に協力していきます。



紙芝居の実演



作業中の様子



出来上がった木工作品



魚つかみ



木工作品でピース



閉会後の集合写真

【山の日記念】第38回夏休み木工教室を開催しました。

【和歌山森林管理署】

8月7日(水)、和歌山森林管理署主催・近畿農政局和歌山県拠点、和歌山県西牟婁振興局林務課及びOF会の協力により、夏休み木工教室を和歌山森林管理署会議室で開催しました。

当日は真夏の暑い中、近隣の小学校5～6年生17名が参加しました。

この木工教室は、夏休みの思い出や宿題を兼ね、子どもたちに木に親しんでもらう目的で毎年開催し、今回で38回目を迎えました。

作品作りに先立ち、澤井和歌山森林管理署長及び近畿農政局和歌山県拠点中根参事官からの挨拶の後、安全に作れるよう、担当職員から道具の使い方などの注意事項と作り方の説明を行い、今回の作品である「コミックブックスタンド」の制作に取りかかりました。

参加者はスタッフのサポートを受けながら、それぞれの材料に鉛筆で墨入れを行い、ノコギリで板材を切っていました。また、^{かねじやく}曲尺やノコギリを使ったことがない子供がほとんどで、鉛筆での墨入れも多く、切ることが難しい箇所もありましたが、墨入れのとおりにより上手に切れると笑顔がこぼれ、作品の仕上げには紙ヤスリを使い綺麗に完成させました。

最後に完成した作品を持って集合写真を撮り、笑顔いっぱいの楽しい1日を過ごしていただきました。

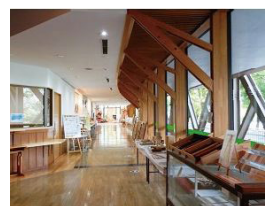
和歌山森林管理署では、地域の子どもたちが木のことを知る機会を提供し、少しでも森林・林業に関心をもって理解を深めてもらうために、今後もこのイベントを継続していきたいと思えます。



出来上がった作品を手にして全員で集合写真

お知らせ

森林のギャラリー (局庁舎1階)



【技術普及課】

○9月5日(木)～9月30日(月)の展示は、鳥取県八頭町、奈良県十津川村、岡山県西粟倉村です。

○ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

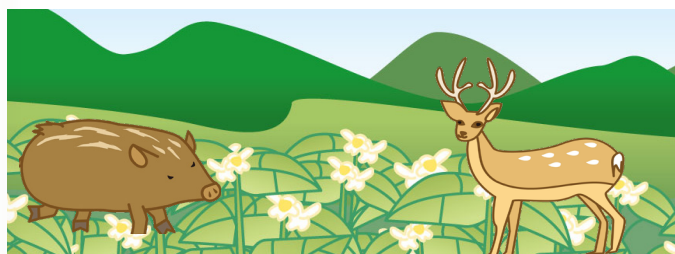
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【技術普及課】

○10月27日(日)「水都おおさか森林(もり)の市2024」を開催します。詳しくは下記のホームページをご覧ください。これまでのバックナンバーもご覧いただけます。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/morinoichi/index.html>



花草木

【シコンノボタン】

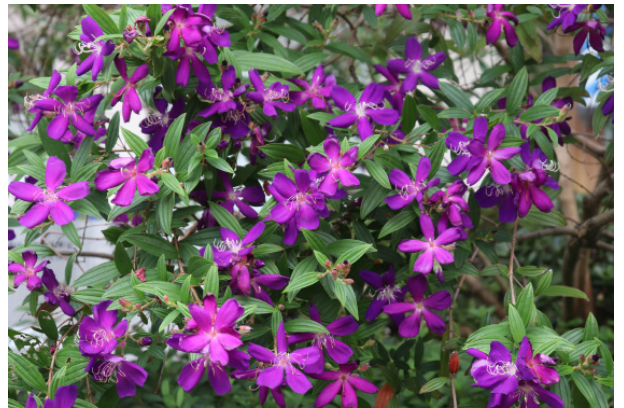
シコンノボタン（紫紺野牡丹、学名：Tibouchina urvilleana）は、ノボタン科ティボウキナ属（和名シコンノボタン属）の常緑低木で、別名スパイダーフラワーの名前があります。庭木や鉢植えとして親しまれていますが、日当たりの良いところを好みます。

シコンノボタンは、一日花ですが、人目を引く鮮やかな紫色の花が次から次へとたくさん開花するのが魅力の熱帯花木です。

原産地はブラジルで本来は常緑なのですが、日本では冬に落葉することも多いようです。葉は対生で楕円、産毛で覆われ、ビロードのような手触りがします。花は五弁で、紫色の大輪花、オシベが長く飛び出しているのが特徴です。

上述のように一日花ですが、花つきがよく、毎日多くの花を次々と咲かせます。花の時期は夏から秋です。

シコンノボタンの花言葉：「平静」「謙虚な輝き」「落ち着き」「ひたむきな愛情」「約束」「常に冷静」



公園に咲いていたシコンノボタンの花（大阪市）

我が署のスタッフ 鳥取森林管理署

藤井 亮太(ふじい りょうた) (R4年度採用)

【現在取り組んでいる仕事は？】

業務グループで主に森林育成を担当しています。造林事業のほか、病虫害による被害木の調査、少花粉苗に関する試験地の管理などに携わっています。

【職場の雰囲気は？】

わからないことがあれば、聞きやすく雰囲気の良い職場です。私は行政区分で入庁したため、林業に関する知識が乏しかったのですが、職場の方々にわかりやすく教えていただきながら働いています。

【林野庁の魅力は？】

全国転勤があるため、様々な地域の自然に触れることができる点です。デスクワークだけでなく、現場で身体を動かし、四季を肌で感じながら仕事ができるのは魅力だと思います。



ドローンを使用した防護柵点検の様子

森林事務所等紹介

西山口森林事務所（山口森林管理事務所）

首席森林官 村上 隆史（むらかみ たかし）

私が勤務している西山口森林事務所は山口県の中央に位置し、山口野田合同庁舎の一階にあります。山口市徳地八坂には、徳地森林事務所があり、こちらも受け持っています。

西山口森林事務所の管轄としては、国有林面積約 2,959 h a、官行造林地約 2,128 h a あり、徳地森林事務所の管轄としては、国有林面積約 3,511 h a、官行造林地約 1,189 h a を管理しております。

私としては十数年ぶりの現場業務ということもあり、「新しい林業」に向けた下刈りや獣害対策など、新しい考え方や事業実行方法を取り入れていく必要性を感じながら日々の業務に当たっています。

今年は例年になく暑い日が続き、林道の草の繁茂が旺盛なことから、国有林を管理するための林道等の整備（草刈等）行っています。さて、皆さんは山口市が新しいN Yタイムズの「2024年に行くべき52箇所」の3番目に選ばれたのをご存じでしょうか。残念ながら国宝「^{るりこうじ}瑠璃光寺五重塔」は改修工事中ですが、ほかにも山口県には有名な湯田温泉や下関市の角島大橋、美祢市の秋吉台に^{あきよしどう}秋芳洞（秋芳梨もうまい）、萩市には「明治日本の産業革命遺産」（世界遺産）があります。

また、山口市の滑山国有林内では森の巨人たち百選の三本杉や、皇居新宮殿にも使用された滑マツを観ることもできますので、ぜひ遊びに来てください。



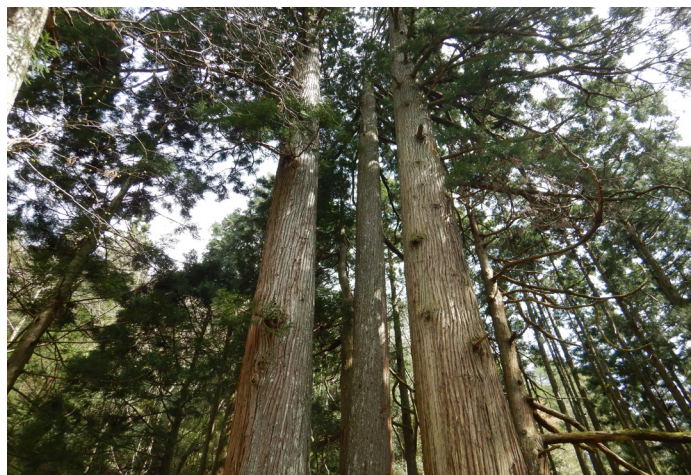
一の坂夜景（夜桜）【山口市】



瑠璃光寺五重塔【山口市】



角島大橋【下関市】



三本杉【山口市・滑山国有林】

シリーズ『国有林最前線！』

平成30年7月豪雨災害の復旧状況について

～東広島地区民有林直轄治山事業～

広島森林管理署

平成30年7月に発生した豪雨では、広島県をはじめ西日本の各地で山腹崩壊や洪水等の大きな被害を受けました。当署では、広島県からの要請を受け、特に山地被害が甚大だった東広島市に山地災害復旧対策室を設置し、市内3区域の民有林で集中的に治山事業を実施しているところです。

事業計画では、令和10年までの10年間を予定しており、折り返し点を迎えた本年度は主要な施設の多くがほぼ完成する見込みです。初期の施工箇所ではすでに緑が戻っており、災害発生当時のいたる所で山肌がむき出しとなっていた姿からは大きく様変わりしてきています。

事業を進めるに当たっては、事業のために必要となる土地等の使用承諾、流末（事業で整備する水路等の末端）処理のための県市等との調整、工事業者の技術者不足等による入札不調など、様々な課題がある中、

一つ一つクリアしながら事業を着実に実施しています。また、事業開始から5年が経過し、当初計画策定時に比べて荒廃状況も変化していることから、現況を適切に評価し、関係者とも調整を行いながら、最適な事業計画に見直すことを検討する必要があります。

今後は、小規模な工事が主体となってくることから、発注が円滑に進むよう、複数箇所の施工をまとめたり、ICTを積極的に活用するなど工夫をしながら、事業を引き続き着実に進めていきたいと考えています。



(H30.07) 被災直後の全体の様子



(H31.03) 応急対策工事後【東広島市】



(R2.06) 災害復旧工事後



(R6.05) 現在の状況